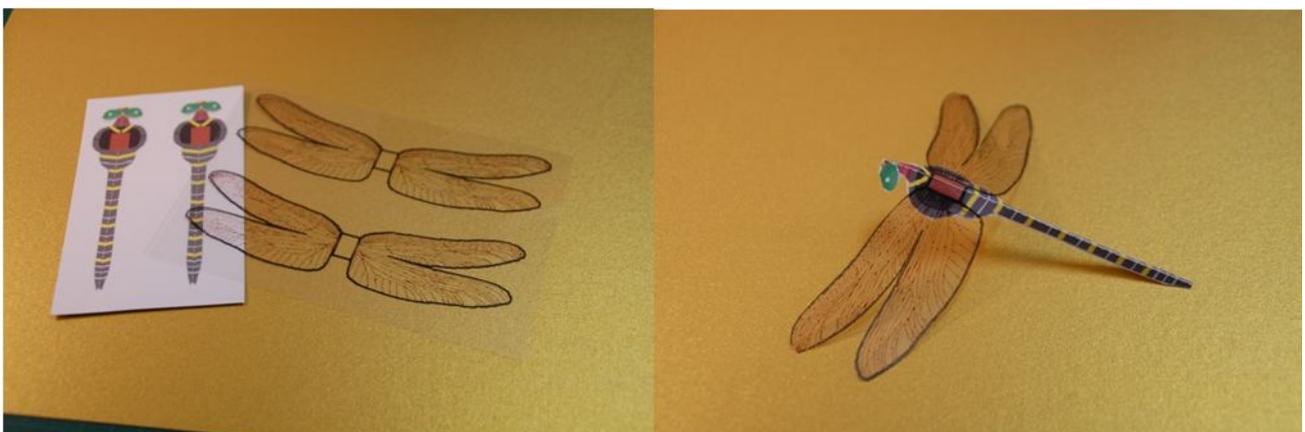


「トンボのバランス」(3年)



トンボの仲間は、草原の空をスイスイ飛んで、竿や指の先に器用にとまって休みます。あの長細い体で、どうやってバランスをとっているのでしょうか？今日は、そのことを子どもたちと考えてみました。

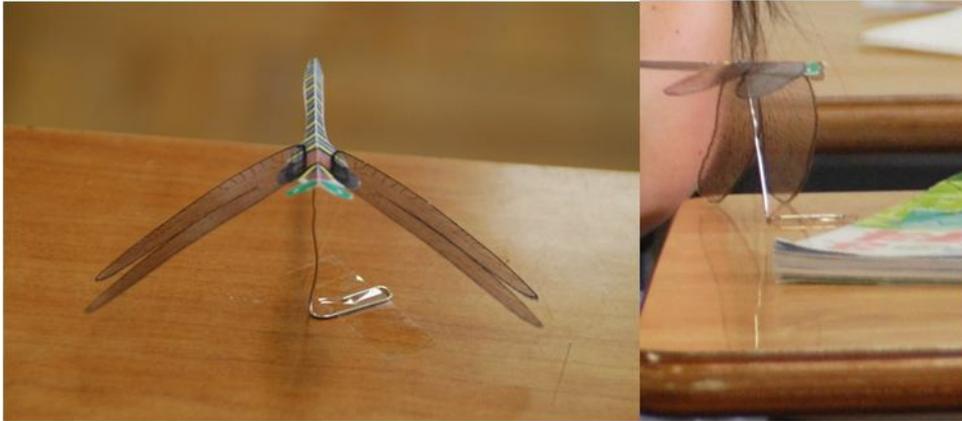
トンボでも模型を作って「実験」してみることにしました。少しでもトンボらしく見せるために、胴体はケント紙に、羽は OHP シート (今やなつかしいですね) に印刷しました。OHP シートは大学の研究室で廃棄寸前のものを大量に救助してきたものです (☆ラッキー)。アゲハの模型づくりの体験があったので、子どもたちは特に説明しなくても、スイスイ楽しく制作していました。



(左) トンボ模型の型紙。胴体はケント紙、羽は透明 OHP シートに印刷しました。

(右) 完成したトンボ。工作が苦手な子でも 15 分で完成。胴体と羽は両面テープで貼ります。

できあがったトンボは、どの子もまず指にのせて遊んでいました。小指の先でも上手にとまっているので、とてもかわいく思えたようです。長い尾のおかげで、重心がちょうど胸あたりに来て、上手にバランスをとれるのです。それから鉛筆の先や、クリップを伸ばした先端など、より細いものでもバランスをとって載せられることがわかりました。羽を下に強く折ったほうが、バランスを保つことにも気づきました。そういえば、休んでいるトンボは、羽を下げていますね。



(左) クリップを伸ばした「トンボ展示台」。

(右) わずかな風でもクルクル回転して面白いです。

アゲハの模型の時は「滑空」の実験をしました。トンボは蝶とちがって、飛翔時はほとんど羽ばたいていて、滑空することはあまりありません。従って、アゲハの模型のようにスイスイ飛ばすことはできません・・・とっていました。しかし子どもたちは、アゲハの模型の経験から、当然のように滑空に挑戦していました。これが・・・できるんですね。

尾を持って、軽く押しながら手を放すと・・・スイーと飛ぶものもありました。一番遠くまで飛んだのは6メートルでした。トンボも飛んで、子どもたちは大喜び。とても楽しい活動でした。



トンボの模型が「滑空」した一瞬。6メートルも飛びました。